

第3回泉南市都市計画マスタープラン策定等委員会

議事録

開催日時 令和6年9月26日（木）15時00分～17時00分

開催場所 泉南市役所 本館2階 大会議室

○配布資料

1. 泉南市都市計画マスタープラン策定等委員会 配席表
2. 資料1 全体構想 将来都市像について
3. 資料2 全体構想 将来都市構造及び都市づくりの方針について
4. 資料3 地域別構想について
5. 資料4 実現化方策について

1 あいさつ

2 議事

- (1) 全体構想 将来都市像について（資料1）の説明【都市政策課】
- (2) 全体構想 将来都市構造及び都市づくりの方針について（資料2）の説明【都市政策課】
- (3) 地域別構想について（資料3）の説明【都市政策課】
- (4) 実現化方策について（資料4）の説明【都市政策課】

3 質疑

■質疑概要

- (1) 全体構想 将来都市像について（資料1）

A 委 員 : 将来人口について、減少の推測から1万4千人の増と抑制されているが、どの年代層をターゲットとして人口増を図っているのか。

会 長 : 人口構成による年少人口、15歳から65歳までの生産年齢人口、それ以上の方々（老年人口）の自然減、社会減の両方あるかと思う。人口と都市計画マスタープランがどのように関係しているか、お話いただけるか。

事 務 局 : 将来人口の推計について、本市の人口分析をすると、社会減が多い。引っ越しされる方が多くて、転入される方が少ないと社会減になる。その原因が何か突き詰めていかないと社会減は減らない。今ここで示している1万4千人という数字は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案の中で様々な推計をして出された数字である。素案の段階で、この1万4千人の年齢別割合というのは、総合戦略の担当課ではきっちり推計されていると思うが、当課では把握できていない。前回の委員会

で、様々な方がどのように泉南市に住んでいるか、泉南市の魅力は何なのかという話題の際に、子育てするのにちょうどいいという意見もいただいた。人口が減るのはやむを得ず、人口構成が大事ということは前回の共通認識として理解されたと思う。年齢構成などの人口構成について、今の状況を確保し続けられるのか、どのような施策が有効なのか、明言するのは難しい。都市計画で住宅をつくって若い世代の方に来てもらうというのは、人口が右肩上がりの時代は望ましいが、人口が下がっているような状況では難しい。各部署において、子育てや福祉など様々な施策があるが、どのようにして人口構成を望ましいものにしていくかを考えている。

： 都市公園等管理運営プランの策定の際に、子どもを対象としたアンケート調査を実施した。アンケート結果から、公園を使う方は10パーセント未満であり、その状況に対してどこまで投資をしていくのか、難しいところである。公園を綺麗にしたら、もっと利用してくれるのではないかという意見も出てきた。アンケート結果では、りんくう南浜公園と俵池公園、農業公園花咲きファームを利用される方が最も多かったので、それらを再整備していこうという計画となっている。話は脱線するが、民間からは厳しい意見もあり、市としてどうするか考えたところ、公園はあらゆる世代の方にとって大切な場所であるということから、基本的には公園に財的投資するという方向で考えている。そういったことを含めて、都市として魅力を上げ、人口増加を目指すことが都市整備、都市政策の考え方である。それらを総合的に考えているのが総合戦略である。人口のターゲットについては、担当部署に確認しておく。

会 長 ： 総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略について、説明いただいた。財政がひっ迫している中で都市のあり方を考えていこうというのが立地適正化計画でもあり、都市計画の役割を果たすことが重要である。

(2) 全体構想 将来都市構造及び都市づくりの方針について (資料2)

B 委 員 ： 1 ページ目の導入部分、現行計画では「本市の二つの都市核と多機能複合拠点とその外縁部を公共交通等で有機的にネットワークすることで「連携型集約都市構造」の実現を目指します」とあるが、事務局案の書きぶりでは、山麓部について連携型集約都市の実現を目指すと捉えられてしまうのではないかと。

： 下表の「交流・レクリエーション拠点」について、臨海部分の賑わいを山側につないでいくという意図があると思うが、事務局案では山側の活動や交流を促進するという書きぶりから、山側から海側につなげていくというように捉えられる。

事務局：書きぶりについて、検討する。

副会長：将来都市構造の図について、多機能型中心拠点が3番目にあるが、1番目でもいいと思う。立地適正化計画の策定を見据えていると伺っている中で、駅周辺を都市機能誘導区域として病院や商業施設を誘導するエリアに設定することが多いが、泉南市の場合は市役所をはじめ、病院や公共施設が集まっているところを中心になるような都市構造ではないかと思う。4つの駅をどこまで都市機能区域に拾っていくかは、来年度以降の議論だと思う。

会長：都市計画マスタープランでは、都市拠点と多機能型中心拠点を分けているが、立地適正化計画を検討するにあたって、2つの拠点が都市機能誘導地域として同じ位置づけになる可能性がある。

：都市構造として泉南市の中心を考えると、樽井駅や和泉砂川駅の都市拠点を中心とすべきか、市役所や病院を含む多機能中心拠点を中心とすべきか、または都市拠点と多機能中心拠点をつなげた広いエリアを中心とすべきか。泉南市をよくご存じの委員の方々の意見を伺いたい。

事務局：（立地適正化計画について説明）

2ページ目の将来都市構造図において、赤い点線で描いている中心都市軸は、樽井駅と和泉砂川駅の2つの都市拠点、多機能型中心拠点をつなぎ、将来的には南ルートで関空までつながるという構造である。この中心都市軸で結んでいる3つの拠点について、将来的にどのような形が望ましいか意見をいただき、参考にしたい。

C 委員：市役所は和泉砂川駅から案外近く、歩いて10分ぐらいである。樽井駅の方が市役所から離れている。個人的には和泉砂川駅から池まで含め、そこから下の樽井駅は別拠点として2拠点の考え方はどうか。池は将来的には公園になるという話があるが、全部一体化するのはちょっと無理があると思う。

会長：駅周辺の雰囲気など周辺地域はどうか。

C 委員：同じ市内ですし、和泉砂川駅と樽井駅は変わらないが、市役所付近は公共施設が多い。

会長：和泉砂川駅と市役所周辺をひとつの中心として、樽井駅は別拠点という意見であった。和泉砂川駅は急行停車駅でもあるので、拠点の連続性高めるのであれば和泉砂川駅と市役所周辺を一体的に緩やかに囲むという考えもあるが、その辺りはいかがか？

D 委員：市の中心を考えるとすれば、和泉砂川駅から旧国道26号線までと考える。

多機能型中心拠点としているエリアは、市役所、泉南中学校、池の横には福祉施設

と体育館がある。また、大きな池の2つは都市公園の予定地になっている。地域性を考えると、この長い範囲を一体的に入れておく方が将来的に公共施設の集約化が図りやすくなる。旧26号線から沿道に建物が多くあるので、そこを整備していくのは難しいと考える。砂川駅から市役所の範囲と商業施設を含めた、和泉砂川駅から旧26号線ぐらいが現実的と考える。

C 委 員 : 中心都市軸を考える際に、樽井駅から伸びる道路は、砂川駅へつながる道路からずれている。これをいかにつなげていくか。

会 長 : 樽井駅を含めるという意見は出てこなかった。事務局にて、出てきた意見を参考にしながら、上位計画である総合計画との整合も配慮して検討いただきたい。

B 委 員 : 現行の第6次総合計画では、4つの駅と市役所を中心とする5つの拠点となっている。泉南市公共施設等最適化推進基本計画において、4つの駅付近に公民館が設置されており、今後はそれらの公民館に公共施設の機能を集約、市役所を中心とする拠点にその他の公共施設を集約していくという計画になっている。中心拠点の円が大きくなってもよいが、私としては、多機能型中心拠点が一番上、都市拠点が次にきて、拠点の大きさは今のままがよいと思う。

会 長 : 来年度以降の話になるが、立地適正化計画の策定する際に、都市機能及び居住誘導区域を考えたときに、拠点を設定する必要があるが、同列の扱いとするか、強弱をつけた位置づけにするか検討する必要がある。また、都市計画マスタープランでは5つの拠点を設け、その考え方をベースに立地適正化計画の策定の際に、拠点の扱いを再度検討することも可能である。

: 現在の案は、総合計画との整合もとれており、論理的には無難である。出てきた意見を参考にしながら、事務局にて決めていただきたい。

E 委 員 : P1の交流・レクリエーション拠点について、個別の施設名称を記載しているが、固有名詞を記載している方が市の施策として有利なのか、市の施設でもないため別の書きぶりでもよいのではないか。

: 書きぶりについて、「誘導します」とか「努めます」という文言が使われている。結果的に、現行計画では、郊外型産業拠点について、特に進展していないまま10年の改定に差し掛かっている。ここまで踏み込んだ書きぶりでもよいのか。

会 長 : 具体的な事業が立ち上がっていると固有名詞が記載されていてもよいが、基本的には記載しない方がよい。個別に確認する必要がある。

: 都市計画道路の見直しについて、構造図にも反映しているか。

事 務 局 : 都市計画道路の見直しは、一部検討している。道路・交通の方針に、文言として記

載している。

(3) 実現化方策について (資料 4)

副 会 長 : 7 ページ目、持続可能な都市づくりの推進の (4) 稼げるという表現について、稼ぐことが目的として捉えられるような表現になるとどうか、別の表現で伝えられるとよい。

会 長 : 事務局にて、検討いただきたい。

副 会 長 : 流行りのトピックで言うと、気候変動について入れていただきたい。能登をはじめ、雨の降り方が変わっているので、豪雨や内水氾濫などについて、実現化方策に限った話ではないが、どこかでいれていただきたい。

会 長 : 具体的なインフラとしては、レインガーデンや雨庭、ゲリラ豪雨対策の空間整備などハード整備なので記載する必要はないが、それを見据えた空間整備と書くかどうか。異常気象の話、防災対策としての都市公園の位置付け、管理規則だけでなく子育て世代へのサービス改善、非日常的需要に対する都市空間の整備やあり方、すぐには対応できないが備蓄倉庫の設置、大規模になってくるとヘリポートや後方支援基地などの体制、防災道路が考えられる。市が管理している河川整備のあり方や水道の話など、防災を考えるときりが無い。マスタープランの中でどこまで書くか検討する必要がある。

E 委 員 : 都市計画マスタープランへの記載は難しいところもあると思うが、外国人コミュニティを誘致するという話も出ているので、そういうことを若干触れていただけるとありがたい。

会 長 : 方向性として記載するのか、課題として記載するのか。多様化の時代、国際誘致やインバウンドなど交流人口や関係人口を増やしていく都市計画のあり方という感じで、課題整理として書きやすいのではないかな。

E 委 員 : 国際化について、総合計画と総合戦略に記載しているが、都市計画まで国際化を記載していると言えたらよいと思い意見したが、馴染まないのであれば結構です。検討いただいたらありがたい。

F 委 員 : P10 の進捗管理について、OODA の判断基準となるきっかけはどのようなことが考えられるか。

事 務 局 : OODA というのは、ウーダーループといい、Observe (観察)・Orient (状況判断)・Decide (意思決定)・Act (実行) の 4 段階の形である。PDCA は、Check (評価) して Plan (計画) して Act (改善) して Do (実行) である。素早く判断、実行へできるよう

な仕組みがウーダーループと言われている。特にコロナ禍において、都市計画マスタープランや諸計画が全く機能しない状態になり、それに対応するために迅速に対応できる方法を考えた際に、ウーダーループがあった。今で言うと、コロナや急激な円安という際に、すぐに状況を判断して進めていけるような仕組みである。現行のマスタープランは、10年間一度も変更しておらず、5年区切りくらいで見直しや直ちに取り組まなければならないものについて変更、迅速な対応をとるために、ウーダーループの考え方を入れた次第である。

- 会 長 : P9 の表、具体的な事業推進の流れについて、非常に大切な資料であるが、本編にいれるのか。KPI の評価や、予算要求にもつながる、所管課で共有しておくべき大切な資料ではあるが、具体的に書きすぎていると思う。もう少し丸めた形で、短期、中期、長期くらいの記載でよいだろう。バックデータとして必要な資料ではあるが、どこまで計画に記載するか検討いただきたい。
- : 景観計画について、今後求められるのは、景観形成に関する基準を決められる景観行政団体になることが進められている。大阪南部でも少しずつ策定されており、泉南市においても検討いただきたい。いきなり予算要求することは大変なので、プロセスを踏まえて沿道景観の形成や自然景観の保全などについて検討いただきたい。

4 その他

- 会 長 : 都市拠点や多機能型中心拠点について、府との協議後のパブコメ案について、事務局と委員長にて検討する形で進めていきたいと考えているが、いかがか。
- 各 委 員 : 異議なし。
- 会 長 : 皆様から了解いただいたということで、委員長預かりにて将来都市構造の検討を進める。
- 事 務 局 : パブリックコメントを1月、次回の策定等委員会は2月を予定している。

5 閉会

閉会の挨拶（事務局）

以上